（第三種郵便物認可）　大正四年八月十九日（木曜日）　大阪朝日新聞（年中無休刊）　第一萬二千五十四號　0（九）

決戰第一日

◆本社主催第一回全國優勝野球大會◆

第一日試合の結果

（十八日）

第一回　鳥取中學對廣島中學　十四對七　鳥取勝

第二回　京都二中對高松中學　十五對零　京都勝

第三回　早稻田實業對神戸一中　二對零　早實勝

全國の好球家が眼を欹て、蝟集つた我國空前の快擧たる第一回全國優勝野球大會は豫定の如く、愈十八日を以て茲有沿線豐中の大運動場に於て花々しく開會された、此の日の試合の先鋒を承るべきは一は山陰道を代表する鳥取中學一は山陽道を代表せる廣島中學の兩健兒、試合開始三十分前ユニホーム姿凛々しく入場し來つて型の如く兩軍交々シートノックを終るや定刻八時、荒木審判長は福井、平岡兩副審判長を左右に控へ本壘を前にして審判員と相對して立ち雙方に兩選手を整列せしめて互に禮を交し引續き雪白の球は荒木審判長より村山本社長の手に移り茲に嚴肅なる始球式は擧行され廣島軍の先攻に依つて試合の幕は切つて落された

▲中國同志の爭覇戰

鳥取中對廣島中

▲捕手傷く　急先鋒を承つた廣島方の小田、林田は敵の過失に乘じてまづ最初に二點を加へ士氣大に振つたが鳥取勢もさるもの强敵一番一點を得た此時廣島軍の軍容に大打撃を與へたのは捕手田部の負傷であつた、士氣稍緩むと見る間に鳥取方は猛襲重ねて來り更に二點を加へられて一點の差を生じ鳥取應援團の赤旗が時を得顏に色めく遂にまた〳〵鳥取軍は一點を加へた

▲際どい勝負　廣島軍は必死の勇を以て攻めたて〳〵敵壘の堅きに幾回か無念の涙を呑いだが第五回に至つて好機を摑んだ四球に出でた小田は捕手の失策に幸ひせられて本壘に進し得點は四對三の際どい勝負に漕ぎつけた

▲一死滿壘　一回、二回共に兩軍の得點もなく三回に至つて京都方の野上四球に出で、二壘手の失策にまづ一點を得、山田の安打に伸もまた疾驅して一點を加へたので幸先き

▲京軍遂に名を成す

京二中對高松中

よしと京軍は動搖めき亙る　第四回に至つて　京都の緩木飛球を右翼に放つて翼手之を逸し其上綴け樣の四球をくりだしたので一死滿壘の潮戸際となつた、滿塁の群集手に熱汗を握る間に投手の惡球捕手を誤らしめ惜しい一點を緩木に與へた壘にある走者疾驅風雲を捲起さんとしたが後援力なくして効を收めず

▲京軍振ふ　京軍は第六回に四點を加へた第七回にも二點を加へた馬首を北斗に立直して軍容甚だ振ふに反して高松軍は奮戰力闘甚だ努めたのにも關はらず敵投手藤田の怪腕に惱まされ遂に前後の九回に至るも無得にして了つた

▲最後の一人　勝ち誇つた京軍は津田、緩木が安全球を右と左に打分ける高橋の四球に無死滿壘となり正に馬を吳山の第一

▲白熱した大接戰

早實對神二中

いよ〳〵當日最後の一回戰なる早稻田實業對神戸二中の會戰となつた一は帝都中等學校チームの覇者一は多年の歷史に光輝を放ち來れる屈指の優勝チーム、觀衆の興味は兩軍のシートノックの際より沸騰し固唾を呑んで其試合開始を啓かんとする勇士の概ありしは壯氣であつた

▲ハンカチワリ　五

▲附カチワリ　いくつたやうな奇拔なのが忽ち人氣を呼んで見る間に賣れて了つた、かに思ふとアン麵麭をウンと揑へ込んで散に驅けて行く學生連が十人や二十人と續く、何處へ行くのか、見るとグラウンドのつい側に蟻集し茂つた森の中に皆飛込む其處で悠々樹蔭の涼風を味はひながら林間立食の態を極め込むこと分明した、烏取と廣島の二校何れ御遠方から態々の御出張に應援團が勇ましく負けも勝もせず立てた烏取は三角の赤旗二廣島は紫の四角い旗、銅鑼聲と一緒に赤や紫がギラ〳〵照る太陽の中に滅多矢鱈に振り廻された、當日の呼物の早稻田實業對神戸二中の對戰振りなり應援振りは服裝まで凡てが面白い對照であつた、前者は輕快に華々しくお江戸の水で雪ぎ上げた何處かにいなせの姿がある後者は素朴に頑丈な書生肌がある

▲お江戸の大正兄哥　來た人達に氣の毒やなの聲があちこちから起る、勝者は村山社長から賞品を授與されて、受けた花輪を光榮顏上に宿ること引揚る其の凛々しい姿に比べて敗軍の悄然うしした其の足並に高松軍は憐憫しかつた

▲野球を見る婦人　先づつて關西學院で同院對神戸二中の野球試合の時間を分けた三千餘位の婦人が二階の教室の窓から半身をのり出して小旗とハンカチを打ち振りながらフレー〳〵と連呼して關西軍を聲援してゐた、そしてその中幾もなく關西軍が敗れることの結入は私の上につゝ、伏して泣きたした時は時の運とは言ひながら敗けたのが口惜しいのではない、負けた恨みを打撃て、雄々しい笑顏を以つて二中の選手を慰し出した關西がしばらくいふ同情の涙であつたこの婦人は吉岡（關西學院長）の義姉園島さき子と云つて洋行もとりの音樂家である昨日の盤中（二合にはほんもうに野球の趣味を解して見物してゐる婦人は殆どなかつたが一人清楚な二十四五格好の黑紗の帽を冠めた上品な奥樣姿の婦人が始めから終りまで熱心に見てゐた、神戸二中對早稻田の火の出るやうな試合になるとこの婦人は中分立ち上つてハンカチをしつかりと握りしめて時々「あら早稻田が勝つた、どうぞ神戸が一つ取るやうに」等と云ふ小さいさゝやきの聲を洩らしてゐた、この婦人は伊丹の漏上優郎氏夫人「野球と云ふものは始めて見るので御面白いますがはんとうに面白う御座いましたつゐて來たいと思つて居ります」と語つて居た（婦人記者）

▲社長賞授與　當日の試合に勝利の月桂冠を得し烏取中學、京都二中、早稻田實業の各選手連は試合を了るや直に審判席前に整列し村山社長より勝利を祝する旨の挨拶と共に賞品として萬年筆の授與を了へ續いて美津濃より贈與の花輪を受けて何れも光榮ある勝者の姿凛々しく引取つた

●選手請待會

寶塚パラダイスにて

終日試合疲れたる大會選手一同は十八日午後六時より箕面電鐵會社に招かれ特別電車にて寶塚パラダイスに

▲雲集の觀衆を　抱擁すべく大手を擴げてゐた曼々の蒼穹空に縱橫數筋かの線を描く飛球の跡、颯と逸ふユニホームの紛ふ、樂隊が鳴る、彩旗が飜る、そして觀衆はグラウンドへグラウンドへと奔注して來る其れが來賓席を塞ぎ、幾つかの天幕に溢れ、觀覽の下を埋め、了ひには芝生の上に烹り附ける炎天を知らぬ顏に坐込まして熱狂の聲を戰士の上に浴びせかけ、果ては

▲躍上て騷いだ　幾萬と數へられた觀衆の大部分が學生連であつたのは元よりで赤、紫、三角、四角と樣々の彩旗が滅多矢鱈に振り廻されるのも彼等の手、紙製の大喇叭を突き出して我鳴り散らすのも彼等の口であつたが、斯うした浴衣に袴を着けて日に焦けた顏を晒してゐる學生連の間に桃色や紫縮の洋傘を華やかに翳した女性が幾組か

▲雙眸を輝して　るた事實を見逃すここが出來ぬ、試合が始まるご間もなく捕手が指を挫いたほごの猛烈な試合ぶりを眞中に挾んで西北隅に揭示板が聳ゆ、東南隅に八旗の優勝旗が嚴かに置かれてあつた、優勝旗の幾旒夫れは山陽、關西、京津、早稻田實業、兵庫、東海五縣連合の各優勝旗何れも彼等が過去の最近の光榮を表示してゐる中央に、光榮中の光榮、絕對優勝の的として全國野球大會優勝旗が燦として韮壹に垂れてゐる、躍動の限りを盡し渾身の汗を流して戰ふ彼等の眼が珠を捉ふ龜の如く幾度「勝者に光榮あれ」のこの優勝旗に注視されたか、而かも彼等が戰ふ其の後方には冷然と揭示板が彼等の成績を發表して行く、何れが勝つにしても負けるにしてもですご選手の一人は眼を光らした、暑さこいつたら炎天の百度に野球選手の熱度が百度と共に峰に立てた影で其の得意想ふべく後から〳〵こ走者を逐つて仲の三壘打に運に懸る處があるから攻じめ測り知るべくもない斯くて午後三時十分戰鬪の第一矢は先づ早稻田軍より切つて放たれた一回は平凡に終り二回に入るや早稻田方石井、中澤の二人二壘三壘に據り本壘を狙ふ、熱狂せる彈丸、昂奮せる觀客は素破こそ手に汗を握つたが諺く宮川の飛球を二中の今村見事にグラブに收めて事無きを得た併し是等は

▲熱狂せる戰場の喚聲

——樂隊の響、彩旗の影、應援の叫——

都合三百度には如何やら勘定が合はぬやうだが兎に角炎り附けるやうな炎熱にグラウンドを圍んで陣營のやうに並んでゐる出店には氷が山の如く運ばれてゐた、何れもラムチの立飲、水瓜に喰ひ附きの形ごいつた書生さん連で滿員であつたが、一方平駄張り込んだが最期太陽位には辭易せぬごいつかな動かぬ觀衆を相手に遠征飲料水賣りが聲を嗄らして廻つてゐる、氷附きサイダー一本十錢ごいふのや

▲無く、空しく九回を經て二對零にて早稻田實業の勝利に歸したのは是非も無き次第である

▲熱狂せる戰場の喚聲　——樂隊の響、彩旗の影、應援の叫——　都合三百度には如何やら勘定が合はぬやうだが兎に角炎り附けるやうな炎熱にグラウンドを圍んで陣營のやうに並んでゐる出店には氷が山の如く運ばれてゐた、何れもラムチの立飲、水瓜に喰ひ附きの形ごいつた書生さん連で滿員であつたが、一方平駄張り込んだが最期太陽位には辭易せぬごいつかな動かぬ觀衆を相手に遠征飲料水賣りが聲を嗄らして廻つてゐる、氷附きサイダー一本十錢ごいふのや

▲無く、空しく九回を經て二對零にて早稻田實業の勝利に歸したのは是非も無き次第である

▲白熱した大接戰　まだほんの小戰鬪、五回に至つて火の出るやうな接戰の後遂に早稻田をして光榮ある最初の一點を得せしめたのである、此の時早稻田方一死の後宮川四球に出で二壘を盜み次の岡田三壘を過らしめて宮川を三壘に送り、續

▲熱狂せる戰場の喚聲　——樂隊の響、彩旗の影、應援の叫——　十八日の曉は前夜の暗澹たる雨雲をケ淵新緑會社西北隅女工寄宿舍二階より出火し見る〳〵火焰は猛威を振ひ今や隣分署よりは消防隊繰出にて鎭火せるも六十二坪の建物一棟を全燒し同九時半頃火せり原因は火鉢の不始末より出でたるものなり

▲鐘紡の火事　十八日午前八時五十分東成郡北新開北村字鴫野鐘紡

▲秋田中學校　投手　西川　孝二　捕手　菊川　武雄　一壘　置鹽　周二　二壘　廣森　重信　三壘　前納　良平　左翼　堤　周成　中堅　川中　隆三　右翼　菊川　茂　補欠　藤井　喜助　谷口　胖

▲山田中學校　投手　戶田　省三　捕手　矢部　和夫　一壘　永岡　一二　二壘　小川　錦水　三壘　中筋　武久　遊擊　西村　秀行　左翼　小笠原道生　中堅　奥山彌太郎　右翼　小川　豐　補欠　谷口　忠夫　丸山　繫秋

▲久留米商業學校　投手　城崎才次郎　捕手　田中　一郎　一壘　森崎　一郎　二壘　藤吉　雅彦　三壘　藤吉　義雄　遊擊　片岡　直藏　左翼　本間　義雄　中堅　今里喜次郎　右翼　內藤　直藏　補欠　秋山　安藏　金原　養平

▲秋田中學校　投手　廣崎　純司　捕手　渡部　信太　一壘　齋藤　二郎　二壘　長治　三壘　鈴木　榮治　遊擊　小山田推一　左翼　羽石　統一　中堅　丹　市郎　右翼　眞吉　繁治　補欠　土井　高橋　巍

▲和歌山中學校　投手　戶田　省三　捕手　矢部　和夫　一壘　永岡　一二　二壘　小川　錦水　三壘　中筋　武久　遊擊　西村　秀行　左翼　小笠原道生　中堅　奥山彌太郎　右翼　小川　豐　補欠　谷口　忠夫　丸山　繫秋

●本日の試合

第一回　和歌山中學對久留米商業（午前九時開始）

第二回　山田中學對秋田中學（午後一時開始）

選手姓名左の如し

▲有數の接戰　本日の第二日は午前九時より開始する事さなれるが前項發組の二試合を以て第一次の豫選を終了し更に第三日の第二次豫選に移る筈なるが本日第一回の陣頭に現れんこするものは大阪、奈良、和歌山の一府二縣を代表して海南の一角より突如こして勇躍したる和歌山中學こ意氣を以て戰はんこする九州男子の代表たる久留米商業の一戰なり、もこより勝敗の結果は豫想すべからず、更に第二回こして第一次豫選の殿りを飾るものは蛋山三百里遙に來れる秋田中學健兒こ昨年も今年も全東海の勇猛を撫て斬りたる伊勢山田中學の對抗にして恐らく今回の大會中有數の好試合たるを失はず

▲第二次豫選番組　第三日の一勝者試合番組は今日試合終了後直に抽籤

第一回　小西、吉川、三木

第二回　岡本、井上、高山、井戸、

▲秋田中學應援團　在阪秋田縣人會は秋田中學選手應援のため同縣人今野氏引率の下に約五十名が集團を作つて華々しき應援をなす由尙聞く州六縣人會にても遠來の健兒に聲援をなす計畫中なりこ

八日午後七時二十分頃に於て一人が法廷に立つが如き事は名の馬廐番を裝ひて侵入し主人を梶棒を以て毆打負傷せしめ其の妻女こ共に全然なきものこ見て差支なかるべし又本事件の犯人は發覺次第嚴重なる處分に附せらるべく又一萬圓事件も大抵子爵退さ本出氏は傷害罪こして收監の死れざるーイを一間に押籠め百五十餘圓を强奪

●アルカリ敗訴　——有毒瓦斯の損害賠償——

有毒瓦斯を噴出し農作物を枯死せしめたりこの理由の下に明治四十三年度分の鑛業稅の減免を出願したる東京府北豐島郡王子町王子製紙會社（王子工場）に對し東京府知事より當局者に於て調査の上減免の可否を決定すべき旨の訓令を發したるこ聞き同工場にては同瓦斯の爲めに附近の農作物に損害を與へ